

インドネシア行政視察報告書

1 目的

本県は、「熊本復旧・復興4カ年戦略」の「世界とつながる新たな熊本の創造」を効率的・効果的に進めるべく、新たなマーケットの開拓と交流促進、アジアを中心とした海外インバウンドの推進などを図っているところ。

成長著しいアセアンの中で、人口及びGDPともにアセアン全体の4割を占めるインドネシアは地域盟主であり、外務省の調査でアセアン7か国の中でも最も親日家が多いこの国との交流は、本県のアジア展開でも重点地域となっている。

一昨年11月には世界でも有数のリゾートであるバリ州とのMOUも締結しており、首都ジャカルタ市及びMOUパートナー、バリ州との交流を通じて本県の経済交流促進を進めていくこととなっている。

こうした中、現在のインドネシアの経済環境、海外インバウンドの取組状況、県内の中小企業に資するインドネシアへの中小企業展開の事例、さらには、海外へ人材を送り出す際の現地の取組状況等について、現地視察調査を行い、新たな施策の可能性を探るなど今後の議員活動に資するものとする。

2 日程 平成30年7月3日（火）～平成30年7月8日（日）

3 場所 インドネシア共和国（ジャカルタ市・バリ州）

4 参加者

（1）熊本県議会議員

高木 健次、早田 順一、浦田 祐三子、内野 幸喜、高野 洋介
増永 慎一郎（計6名）

5 訪問概要

■ 7月4日（水）

1 インドネシアバドミントン協会関係者との面会

○日 時 平成30年7月4日（水）9：00～10：00

○対応者 バンバン氏ほか

○概 要

- ・ バドミントンの大会が開催されている競技会場の「イストラ・スナヤン」を訪問し、バンバン氏はじめインドネシアバドミントン協会の関係者と面会。事前キャンプ決定への御礼を述べ、会場内を案内していただいた。
- ・ 試合の様子や選手の休憩ルーム等を見学。休憩ルームには、選手がいつでも水分補給できるよう、大会のスポンサー企業であるジャルモの柚子を使った飲料などが常備されていた。



2 J N T Oジャカルタ事務所訪問

○日 時 平成30年7月4日(水) 10:30~11:30

○対応者 富岡所長、磯部次長、大内次長

○概 要

富岡所長よりインドネシア事情及びインバウンドの現状について説明。

- ・ ジャカルタは渋滞が世界一酷いと言われており、インフラ整備が急速に進められている。
- ・ インドネシア人口の平均年齢は約30歳で、楽観的な国民性。最低賃金は月に35,000円程度だが、国民の多くは生活水準が向上していくという期待を抱いている。
- ・ 現在、ジャカルタ、スラバヤ、メダンで旅行博や商談会を開催しているが、今後はバンドン、スマランなど開催都市を増やしたい。
- ・ 日本への観光客は昨年30%近い伸び。時期は桜の時期、レバラン休暇、学校休暇などに集中しているが、今後は秋の紅葉や雪の魅力をPRして時期の分散化を図りたい。
- ・ 海外旅行先はシンガポールとマレーシアが多い。また、韓国が不法滞在への対応からビザ発給を厳格化したことにより急激に減少している。
- ・ 人口の5%の中華系が経済の約8割を押さえていると言われ、ムスリム以外の旅行者が7~8割を占める。FITが増加しておりインドネシア語での情報発信が望まれるが、一方でムスリムは旅行社での手配を好む傾向にある。ムスリムのイスラム教関係の旅行に特化した旅行者もあるが、価格の安さから中華系の旅行会社がよく利用される。
- ・ 熊本県でもフェイスブックやインスタグラムを活用してインドネシア語でのPRを考えられてはいかがか。
- ・ ジャパン・トラベル・フェアを今年は10月半ばに開催する。

Q: 熊本の認知度はいかがか。九州としてPRした方がよいのか。

A: まだ認知度が高いとはいいがたい。九州全体で考える必要はあると思う。

最近はインドネシアから約160名が東京マラソンに参加するなどスポーツの趣味も増加しており、9月には熊本県高校生チームとの親善試合も予定されているようだが、イオンモールで開催の日本村イベントでもバドミントンのイベントが予定されており、良いPRの機会になるとと思われる。

Q：非イスラムが7割とのことだが、中華系以外への広がりにはどの程度かかりそうか、またどちらをターゲットにすべきか。

A：ムスリム人口は2.3億人おり、潜在力は大きい。現状ではどちらもターゲットとして考えるべきかと思う。

Q：建築業などで人材を受け入れるにあたり、ジュネーブ協定により自動車の運転ができないのがネックである。どうにかならないだろうか。

A：国レベルの問題なので難しいが、富裕層の中にも日本で運転ができないことを不便に感じている方は多い。



3 JICAインドネシア事務所訪問

○日 時 平成30年7月4日（水）13：00～14：00

○対応者 原田次長、木下調査員、大塚調査員

○概 要

- ・ 2012年度から、日本の企業と現地のパートナー企業が協力して将来のビジネスチャンスにつなげようという試みで、中小企業の海外展開支援に力を入れている。
- ・ インドネシアでは約90件実施しており、国別ではベトナムに次いで第二位となっている。
- ・ 最近では、茨城県の水産加工業の株式会社あ印が、従来のアフリカ産タコに代わりインドネシア産タコを原料にしようと動いている。

Q：近年の相談件数と内容はどうか。

A：事務所では3人体制で毎月20～30件の相談を受けている。賃金上昇や厳しい外資規制への対応などへの相談が多い。

Q：その後は現地に根付いているのか。

A：まだ事業が終了した例はないが、あ印について言えば、既にパートナー企業を見つけている。

Q：実施する場所は企業が決めるのか。州政府の支援はあるのか。

A：基本は企業で決める。案件により州の下の自治体まで絡むこともある。

Q：自治体の事例としてどのようなものがあるか。

A：鹿児島県の大崎町がバリ州でごみの分別に技術協力、神奈川県は水環境での協力を力を入れている。また愛媛県の愛媛トヨタが進出し、自動車整備士などの産業人材育成を行っている。

Q：日本企業が進出後に撤退した理由はどのようなものか。

A：特に環境分野で多いが、初期投資が高いこと、規制の実施が不十分、官公庁の手続きの煩雑さ、極端な国内企業優遇などが挙げられる。

Q：国として規制の動きはどうか。

A：国として動きはあるが、それを実施できる人材が不足しているのが現状。

Q：木ノ内農園のイチゴ栽培は定着しているのか。

A：案件化調査の段階である。

Q：高速鉄道についてはその後どうか。まだ日本にチャンスはあるか。

A：2015年に中国案が採択されたが、土地収用などが課題になり上手く進んでいないようだ。ジャワ島で他の区間の計画もあり、チャンスはあるだろう。



4 インドネシア海外労働者派遣・保護庁訪問

○日 時 平成30年7月4日（水）15：00～16：00

○対応者 Teguh Hendro Cahyono 氏ほか

○概 要

熊：インドネシアから多くの人材に来ていただいているが、雇用主からの評判が非常に良い。今回はしっかり意見交換して参考にさせていただきたい。

尼：日本の労働力需要を満たすには50万人が必要と聞いている。同庁は海外で働く家政婦の労働問題を契機に設立され、問題となった中東への家政婦の派遣は現在中止している。海外への労働者は、日本以外に、韓国、台湾、カタールなどが多い。

熊：今年2月にフィリピンを訪問した際は、日本での就労にはあまり魅力を感じないとの話を聞いたが、いかがか。

尼：日本での就労は魅力ある選択肢の一つ。ただ、分野が限定されているのが残念。看護師については国内でのニーズも高いため人材の取り合いになる。他にも日本で求められる職種を知りたい。観光などの業種でスタンダードを合わせることはできないか。

熊：観光、建築、福祉などの分野でニーズが高い。特に2025年には看護師が約35万人不足すると言われ、喫緊の課題である。インドネシアの運転免許が日本で使えないのも不便であり、改善に向けた働きかけをお願いしたい。

尼：日本のどの省庁に働きかけるべきか。

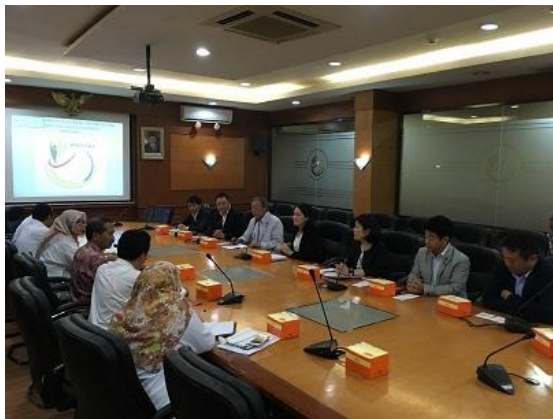
熊：厚労省や外務省など、複数の省庁が関係するかと思う。

尼：お互いにウィンウィンの関係になるよう協力していきたい。

熊：帰国後の実習生の評価はどうか。

尼：職務経験に加え、日本で習得した遵法精神やマナーなどが評価されている。毎年12月に厚労省とジョブフェアを開催するが参加者が50人ほどと少ない。既に職を見つけている場合が多いようだ。

熊：「en 塾」で大学生の日本理解に感銘を受けた。インドネシアとの人材交流には非常に期待をしている。



■ 7月5日（木）

5 ジャカルタ日本人学校訪問

○日 時 平成30年7月5日（木）8：00～9：30

○対応者 米村校長、立花教頭

○概 要

- ・ 同校は世界第二位の規模を誇る。98年のジャカルタ暴動後に一旦減少したが、近年は増加傾向。インドネシアや英語の指導教員を含め、約80名の教諭が在籍している。
- ・ 約8割は関東圏から来ており、中学卒業後は帰国することがほとんどだが、最近では早稲田シンガポール校や現地のインターナショナル校に進学する生徒

もいる。

Q：ほとんどが駐在員の子女か。

A：両親が現地で結婚して長期滞在されている方も増えている。

Q：特色のある教育はあるか。道徳教育についてはいかがか。

A：現地理解教育や小一から英語教育を実施している。道徳教育についても基本は日本の指導要領に沿って行っている。

Q：インドネシア語についてはどうか。

A：週に1時間程度実施しているが、基本は日本人社会で生活しているため使う機会はほとんどないのが現状。

Q：積極的に教員の派遣をしている都道府県はあるか。同校での勤務経験が子供たちにプラスの影響を与えると考えてよいか。

A：東京都と埼玉県が多い。子供たちの国際理解には明らかにプラスである。

Q：単身で赴任される例が多いのか。

A：家庭の事情によりそれぞれである。小さい子供がいれば帯同が多い。

Q：インドネシア人の子供は入学できないのか。

A：日本国籍の子供だけとなっている。

Q：今後の児童・生徒数の見込みは。

A：東ジャカルタに進出する企業が増えており、増加するのではないかと。インドネシアでは、他にバンドンとスラバヤに日本人学校があるが、来年はジャカルタ東部のチカランに新たに開校予定。

Q：企業からの支援があるか。

A：多くの寄付金をいただいている。

Q：送迎はどうしているのか。

A：スクールバスを推奨しているが、自家用車での送迎もある。

Q：こちらでの勤務期間は3年程度か。

A：同校の教諭は3年が多い。駐在員は5年程度が多いようだ。

Q：部活動の指導教員はどうしているのか。

A：子供の希望により部活動を行い、指導者は赴任者の中から割り振っている。



6 ジェトロ・ジャカルタ事務所訪問

○日 時 平成30年7月5日（木） 10：45～11：25

○対応者 中沢氏ほか

○概 要

- ・ 昨年のGDP成長率は5%台だが、国としては7%を目指している。
- ・ 直接投資額が大きいのは日本とシンガポールだが、中国が伸びている。シンガポールからの投資には中華系インドネシア人がシンガポールに設立した会社も多い。
- ・ Eコマースは中国のアリババも進出するなど伸びているが、物流が課題。
- ・ 会社法の関係でインドネシアには大企業しか進出できないのが現状。また、進出から日が浅い企業は多くが赤字を抱えている。
- ・ ここ数年は労働者の大きなストは起きておらず安定している。

Q：政治による影響はどうか。

A：来年の大統領選を控えているが、大きな変化はないのではないかと。

Q：日本企業の進出は合弁なのか。

A：製造業は100%独資で可能だが、卸売は67%、小売はインドネシア資本100%という規制がある。インドネシア国内で製造して欲しいというのが政府の基本的な考え方である。

Q：技能実習生についてはどうか。

A：送り出し機関が重要である。また、日本で需要がある介護人材については、帰国してもインドネシアには経験を生かして働く場所がないのが現状。また日本語教育を実施する機関が多いものの総じてレベルはさほど高くない。

食品業界で関心が高い。海老やわさびの加工のほか、インドネシア産のカツオは品質が高いことから、鹿児島県のマルモがかつお節加工の工場として進出している。

Q：日本ブームの動きはあるか。

A：近年は韓流ブームの方が強いが、日本関連のイベントの集客力は期待できる。



■ 7月6日（金）

7 在デンパサール日本国総領事館訪問

○日 時 平成30年7月6日（金）9：30～10：30

○対応者 千葉総領事

○概 要

Q：闘争民主党の支部長が新たな知事に就任とのことだが、政策スタッフも交代するのか。

A：猟官制ではないが、官房を中心に人事異動はあるだろう。具体的には副知事、アシスタント、官房長以下部長である。当地では知事と副知事がセットで選挙に出馬する。今回はデンパサール市長＋現副知事（ゴルカルの支部長）と支部長＋ウブドの王族（バリ観光協会会長）の接戦であった。

スカルノ元大統領の母がバリ人という所縁もあり、バリは伝統的に闘争民主党が強い。パスティカ知事についても、一期目は闘争民主党が支持したが、二期目は闘争民主党が別の候補を支持したことからゴルカルの支持を受けた。

来年は大統領選挙だが、現ジョコウィ大統領の続投が有力と見られており、副大統領候補の方が話題になっている。

Q：熊本県以外にバリ州との交流は。

A：姉妹友好提携している都道府県はない。富山市がタバナン県と小規模な水力発電のプロジェクトを進めており、JICA事業で実証実験をしている。その他、福岡県が幼児教育で協力の動きや、ウブドの小さな村と島根県のある村が交流を進めている話がある。また岩手県の釜石市がインドネシア船員の研修を行っているほか、福井県の鯖江市がロータリークラブと協力して眼鏡を子供にプレゼントする事業を行っている。

パスティカ知事は事ある毎に若者に「見習うべきは日本である」との発言をされており、ありがたい限りである。また貧困家庭の子供を対象にマンダラ高校を設立し、中にはハーバード大学に入学した生徒もいる。パスティカ知事は今後も私財を投じて新しい学校を創設したいと言われている。

去年は中国からの観光客がオーストラリアを抜いて年間約130万人となった。インドも前年比4～5割増で伸びており、去年は日本を抜いた。日本からの観光客が2008年頃までは首位だったのだが。

Q：中国の現地での評判はどうか。

A：あまり良い評判は聞かない。最近も約200人がサイバー犯罪で検挙された。最近ではオーストラリアの華人が「一带一路新聞」を中国語、英語、インドネシア語で発行を開始している。

Q：どうしたら熊本の知名度も上げられるか。

A：まずくまモンに来てもらうことではないか。



8 ウダヤナ大学訪問

○日 時 平成30年7月6日（金） 11：00～12：00

○対応者 ディア人文学部長ほか

○概 要

- ・ 同大学は1958年に設立されたバリ州で最も伝統のある大学で、12の学部がある。英語学科、日本語学科のほか、インドネシア語、バリ語、ジャワ語等の学科も擁する。学生の総数は約2,700名。留学生も300人ほどが学んでいる。
- ・ 日本語学科には15人のスタッフがおり、200以上の学生が在籍している。トップのAランキングを受賞している。
- ・ 東京大学、茨城大学、大阪大学、富山大学との交換留学制度があり、多くの日本の大学とMOUを締結している。
- ・ 崇城大学とのMOUについては、まずは人的交流を進めることが重要。

※ 図書館において、ロンタルという植物を原料に作られた古文書と文字を記入する実演を見せていただいた。同図書館には約1,000のロンタルの古文書が保存されているとのことである。



9 バリ州政府訪問

○日 時 平成30年7月6日（金）14：00～14：30

○対応者 Drs. Dewa Made Indra, M.Si. 官房長ほか

○概 要

熊：両県州のMOUへのご協力に敬意を表するとともに、今後さらなる交流が進むことを祈念する。

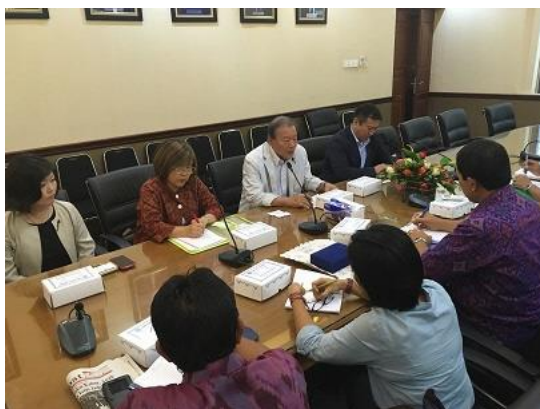
官：知事、副知事ともに熊本訪問の経験があり、素晴らしい印象を抱いている。パスティカ知事も両州県には農業と観光という共通点が多い一方でそのレベルには差があるため、熊本県から多くのことを学びたいと言っている。

農：先週も第一弾の技術指導に来ていただいた。まだ具体的な事業はこれからだが、順調に進むことを願っている。

教：奨学金制度への協力、障害者教育の指導、人材の派遣などをお願いしたい。また、大学生間の交流は多いが、高校生への指導なども希望している。

観：日本からの観光客を増やしたい。去年はアグン山の噴火もあったが、現在のバリは安全である。以前は日本からの観光客が最も多かった。特にバリは南半球にあり、今の時期は涼しくて過ごしやすい気候なのでお勧めである。

熊：MOUの事業はこれからだが、ウィンウィンの関係を目指して努力したい。



10 闘争民主党バリ州支部訪問

○日 時 平成30年7月6日（金）14：45～15：30

○対応者 バリ州選出国會議員2名、地方議員8名ほか

○概 要

闘：本日は新知事が出席できず申し訳ない。知事から「バリ州と熊本県の関係強化、特に交流を通じてインフラと人的資源の向上を望む」との伝言を受けている。バリ州にはまだ鉄道がないため、在任中に環状線、そして高速道路の整備も進めたいと言っている。また、日本でもっと就業の機会が出来ればと望んでいる。農業はもとよりその他の分野においても同様である。

熊：明日はモデル農園を視察するが、農業分野の連携をさらに強化したい。ま

た、バドミントンのキャンプ地に関しても今後のご協力をお願いしたい。

自民党との間でパートナーシップ協定を結ばれたと聞いているが。

闘：ジャカルタの本部が窓口となって進んでいるのだろうと思う。

日本は農家が豊かだという印象がある。日本の農家への支援はどうか。

熊：各種補助金や農産物の価格保証制度がある。また農協組織もしっかりしている。一方で天候に左右され後継者不足という課題もある。

闘：後継者問題はバリ州も同様である。

山間部には日本の技術指導を受けてカカオやバニラを生産している村がある。ISOも取得している。



■ 7月7日（土）

1 1 モデル農園（畜産）視察

○日 時 平成30年7月7日（土） 11：00～11：40

○場 所 モデル農園（畜産）

○概 要

- ・ 畜産のモデル農園を訪問し、まずリーダーから概要の説明を受けた。組合員21人で運営され、面積は約1.8ha、栽培しているのはほとんどがミカンである。
- ・ 品種により異なるが、現在は3千～5千ルピア/kgで販売している。収穫量及び売価を上げたいと考えており、そのためにはまだ課題が多い。
- ・ 先週は最初の技術指導で熊本県の果樹の技術職員に来てもらった。農園の現状を説明し、摘果や剪定等について助言を受けた。

